

株主のみなさまへ

..... Vol.61

株主通信 第119期中間期

2025年1月1日～2025年6月30日





代表取締役社長

島野 泰三

事業の経過および成果

当中間連結会計期間におきましては、世界経済は緩やかな回復を維持したものの、各国の通商政策、ウクライナや中東における紛争長期化、中国経済の停滞等の影響により、依然として先行き不透明な状況が継続しました。

欧州では、インフレ圧力の緩和で個人消費は堅調なものとなり、景気は緩やかな成長が継続しました。

米国では、通商政策の動向から消費者マインドが冷え込み、景気は弱含みで推移しました。

中国では、長期化する不動産不況の影響や個人消費の低迷により、景気回復は力強さを欠きました。

日本では、堅調なインバウンド需要や雇用・所得環境が改善するなかで、景気は緩やかな回復が続きました。

このような環境の下、自転車、釣具への関心は継続し、当中間連結会計期間における売上高は237,409百万円（前年同期比9.5%増）、営業利益は28,123百万円（前年同期比9.2%減）となり、為替評価損等により経常利益は14,038百万円（前年同期比74.8%減）、親会社株主に帰属する中間純利益は3,961百万円（前年同期比90.9%減）となりました。

自転車部門

長期的なトレンドとして自転車への高い関心が続くなか、一部の地域において市場在庫は依然として高めの水準で推移しており在庫調整は継続しました。

海外市場においては、欧州市場では、春先の好天にも恵まれ完成車の店頭販売は堅調で、市場在庫は減少したものの依然としてやや高めの水準で推移しました。

北米市場では、完成車の店頭販売は弱含みで推移した一方、市場在庫は適正水準を維持しました。

アジア・中南米市場においては、個人消費の低迷が継続し完成車の店頭販売はやや低調に推移したものの、市場在庫は適正水準に近づきました。中国市場では、スポーツサイクリングの関心は依然として底堅かったものの、市場在庫の調整は継続し、やや高めの水準で推移しました。

日本市場においては、市場在庫は適正レベルで推移したものの、完成車の価格高騰が影響し店頭販売は低調となりました。

このような市況の下、刷新したマウンテンバイク向けコンポーネントのハイエンドモデル「XTR」をはじめ、「DEORE XT」、「DEORE」の3シリーズや、自己発電で動作する自動変速を備えた「Q'AUTO」に対して高い評価をいただきました。

この結果、当セグメントの売上高は181,424百万円（前年同期比11.6%増）、営業利益は23,631百万円（前年同期比2.9%減）となりました。

釣具

釣具への関心が継続するなか、販売は弱含みで推移したものの、市場在庫の調整は進展しました。

日本市場においては、市場在庫の調整は進捗したものの、物価高の影響により個人消費が低迷し、販売は弱含みで推移しました。

海外市場においては、北米市場では、販売は前年並みとなり、市場在庫は適正レベルを維持しました。

欧州市場では、恵まれた天候も手伝い販売は堅調に推移し、市場在庫も適正水準を維持しました。

アジア市場では、中国市場を中心に在庫調整は落ち着いた兆しを見せ、販売は底堅く推移しました。

豪州市場では、安定した釣況に支えられ販売は堅調に推移し、市場在庫は適正な水準を維持しました。

このような市況の下、新製品のスピニングリール「ULTEGRA」や新製品のベイトリール「ANTARES」に高い評価をいただくとともに、引き続きベイトリール「METANIUM DC」、ロッド「EXPRIDE」などの製品に多くのご注文をいただきました。

この結果、当セグメントの売上高は55,751百万円（前年同期比3.1%増）、営業利益は4,493百万円（前年同期比32.4%減）となりました。

その他

当セグメントの売上高は233百万円（前年同期比4.9%増）、営業損失は1百万円（前年同期は営業損失24百万円）となりました。

中間配当のご報告

当社は、株主のみなさまに対する利益還元を経営上の重要課題と捉えており、安定的な配当の維持・継続とともに、業績の進展に応じた成果の配分を行うことを基本方針とし、引き続き配当の充実と、機動的な自社株買い継続により総還元性向50%を下限の目安とし、株主還元向上につとめます。

この基本方針に基づき、今回の中間配当金につきましては、2025年2月公表（予想）のとおり、前年同期から15円増配の1株当たり169円50銭とさせていただきます。なお、当期末の配当について、1株当たり169円50銭とし、その結果当期の年間配当額は1株当たり339円を予定しております。

今後の見通し

通期連結業績予想につきましては、中国市場等での在庫調整が継続する見込みであり、工場の生産調整局面において、諸経費の上昇による利益率の低下が見込まれること、当第2四半期（中間期）連結会計期間においてドル安の進行に伴うアジア通貨高の影響による為替評価損等の営業外費用が増加したこと等を踏まえ、次のとおり変更いたします。

株主のみなさまにおかれましては、今後ともなにとぞ変わらぬご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2025年9月

2025年12月期 通期連結業績予想数値の変更（2025年1月1日～2025年12月31日）

	売上高 (単位：百万円)	営業利益 (単位：百万円)	経常利益 (単位：百万円)	親会社株主に帰属 する当期純利益 (単位：百万円)	1株当たり 当期純利益 (単位：円)
前回発表予想 (A)	470,000	70,000	88,250	63,800	722.68
今回修正予想 (B)	460,000	46,000	49,300	30,500	347.97
増減額 (B)-(A)	△ 10,000	△ 24,000	△ 38,950	△ 33,300	
増減率 (%)	△ 2.1	△ 34.3	△ 44.1	△ 52.2	
前期実績 (2024年12月期)	450,993	65,085	98,674	76,329	853.36

自転車部品事業

XTR

止まることなく走り続ける——
新XTRが開いた次なる境地シマノ初、完全ワイヤレスの
電動変速モデルが誕生

岩肌が露わになった険しい道のりを、臆せず突き進む爽快感に、目の前に広がる傾斜を、自分の感覚を信じて攻略する達成感——。限界に挑戦し続けるライダーに、より高度な体験を提供するための機能を追い求めて約7年。シマノの技術と執念が形となり、ついに完成したのが「XTR M9200 シリーズ」です。

マウンテンバイク用コンポーネントのフラッグシップモデルとして、トップ選手や世界中のライダーから高い信頼を得ている

XTR。今回フルモデルチェンジして登場したのは、当社初となる完全ワイヤレスの電動変速（Di2）モデルです。電動式による正確で高速な変速機能に加えて、より高い耐久性や安定性を実現しました。

新XTR誕生の背景にあるのは、マウンテンバイクにおける乗り方の変化です。競技ジャンルの中でも険しさが際立つダウンヒルのコースが他種目でも起用されるようになってきました。厳しい状況下においても、壊れず走り続けられる性能とは何か。その答えを探し求め、研究と開発を重ねてきました。

堅牢性・安定性・直感的 ——
新XTRが遂げた3つの進化

新XTRを語るうえで欠かせないキーワード、それは「堅牢性（Robust）」「安定性（Consistent）」「直感的（Intuitive）」の3つです。1つ目の「堅牢性」は、唯一無二の新型リアディレーラーに備わった持ち味です。エンデューロなどの激しいレースにおいて、リアディレーラーと障害物との接触は選手にとって致命的であり、走行不能に陥るケースもあります。接触による衝撃に負けることなく、進み続ける方法はないか。開発チームが辿り着いたのは、ただ衝撃から守るのではなく、衝撃に対処しうる「形状」と「動き」でした。なだらかな楔（くさび）状にデザインされた表面はスライダーのように機能し、衝撃をいなしながら逃すことができます。接触した場合には内側へ傾きながら衝撃を吸収。その後自動的に元の位置へ戻るため、ライダーは平然と走り続けることができます。「強さ」を独自の視点から突き詰めた結果、斬新かつ確かな堅牢性を生み出しました。

2つ目の「安定性」は、より一貫した性能を確立したブレーキの

特長です。下り坂を楽しむマウンテンバイクにおいて、バイクコントロールを司るブレーキは大きな役割を担います。常に一定の制動力を維持するため、新たに採用したのが新開発の低粘度オイルです。気温の変化、特に低温時に生じやすい性質変化が大幅に低減され、安定したブレーキ性能を実現しました。

最後の「直感的」は、新しい変速スイッチがもたらすかつてない感覚です。進化した変速性能を余すことなく体感してもらうには、ライダーそれぞれにフィットする変速スイッチの存在が必要不可欠です。より柔軟な構造に生まれ変わった変速スイッチは、指を当てるパドル部分の角度を4方向から選択でき、ハンドルに設置する際の向きや位置も自由に調整が可能です。スイッチ部分は主流のボタンではなく、あえて機械式を踏襲したレバーを採用。電動式が叶えるカスタマイズ性に、長年築き上げてきた機械式の操作性を融合させました。

より険しい道を走りたいという好奇心。まだ見ぬ景色を求める探究心。ライダーたちが抱くマインドは、わたしたちのもののづくりと深く共鳴します。「堅牢性」「安定性」「直感的」というさらなる価値を携えた新XTRと共に、シマノは止まることなく走り続けます。



リアディレーラー前面の表面積を減らし、岩や木の根に引っかかるエッジを排除した「ロープロファイルウェッジデザイン」。障害物との接触を滑らかにかわしながら、衝撃をいなし（写真左）。障害物と衝突した場合には「オートマチックインパクトリカバリー機能」が作動。リアディレーラーは内側へ傾きながら衝撃を逃し、その後自動的に元の位置へと戻ります（写真右）。

度重なる試作の末に完成した「Di2シフトスイッチ」。ライダーの好みに合わせて設定や配置を細かく調整できる柔軟性と、機械式から受け継いだ確かな操作感を兼ね備えています。

釣具事業

アングラーの求める機能性を高次元で実現 深化したシーバス専用リール「エクスセンス」

EXSENCE

シーバスリールのハイエンドモデル「エクスセンス」が、4年ぶりのリニューアルを遂げました。シーバスフィッシングとは、シーバス（スズキ）をターゲットにした釣りです。都市部をはじめとした沿岸部や河口などで楽しむことができ、人気の高い釣りの一つとして多くのアングラーに親しまれています。

新「エクスセンス」では高精度なフルメタルボディを採用することで、巻きごちの滑らかさが向上。水中の細やかな変化がよりダイレクトに伝わるようになりました。さらに先進テクノロジーの搭載により、リールの巻き上げパワーやキャスト性能、ドラグ性能など、シーバスのルアーフィッシングに求められる機能性が高いレベルで実現されました。

製品の発売に先駆けて、6月には福岡県で試投イベント「エクスセンスミーティング」を開催。トークショーや限定グッズの販売なども行い、シリーズの魅力をハード・ソフトの両面から体感していただきました。

さらなる深化を遂げ、生まれ変わった新「エクスセンス」。突き詰められた幅広い機能を通じて、シーバスアングラーに豊かな時間と高い釣果を提供します。



“少人数制”で、よりプレミアムな体験を——「シマノ鮎竿プロフェッショナルスクール」

美しい清流に身を置きながら、実りある特別なひとときを——。鮎釣りの楽しさを“学び”の観点から提供する取り組み、それが「シマノ鮎竿プロフェッショナルスクール」です。

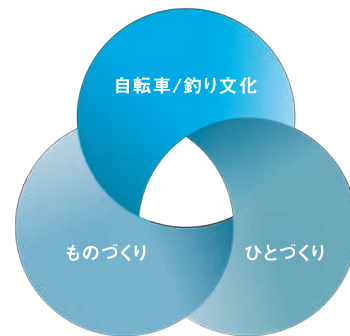
本イベントの最大の魅力は、参加者の“少人数制”です。2025年は、インストラクター3名に対して参加者6名と、ほぼマンツーマンに近い形でレクチャーが行われています。参加者は実際に製品に触れながら、開発に携わったインストラクターから鮎竿の特徴や使い方を直接教わることができるため、製品に対する理解や納得感を高めつつ、釣りの技術を向上させることもできます。実施後のアンケートでは、イベント内容・シマノ鮎竿ともに高い評価を受け、満足できたという声が多く寄せられました。

「よりプレミアムな体験」をテーマに実施した今回。ここでしか味わうことのできないシマノブランドの魅力、そして鮎釣りの楽しさをより深く体感していただく機会となりました。



※2024年開催時の模様

シマノトリコロール（アクティビティ）



製品・人・文化が織りなす新たな価値 「シマノトリコロール」

シマノトリコロールは、当社が掲げるミッション「人と自然のふれあいの中で、新しい価値を創造し、健康とよろこびに貢献する。」を体現する価値観です。当社では、シマノトリコロールを支える3つのテーマ「ものづくり」「ひとづくり」「自転車/釣り文化」を軸にした、様々な活動に取り組んでいます。

トピック

持続的な地球環境の保全・改善に向けた CO₂ 排出量削減の取り組み

当社では、美しく良好な地球環境づくりに貢献するため、気候変動への対応の一環であるCO₂ 排出量削減に取り組んでいます。

高効率で無駄のないものづくり体制のもと、エネルギーの使用量を削減したうえで、再生可能エネルギーへの転換も進めています。

具体的な取り組みとして、化石燃料を熱源とする設備から電気設備への切り替えや、国内の製造拠点で使用する全電力を再生可能エネルギー由来の電力でカバーするなどが挙げられます。また、CO₂の排出量について信頼性を高めるため、第三者による保証の取得を開始しました。

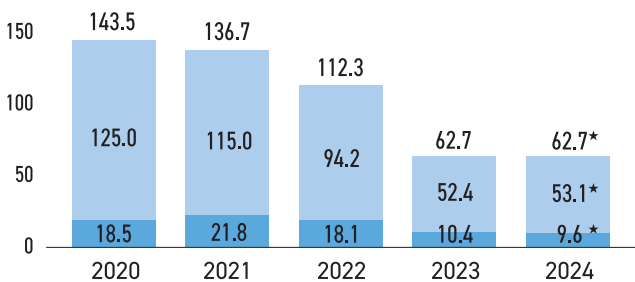
当社は、2030年までに国内外の製造拠点のCO₂ 排出量（スコープ1、スコープ2※1）を55%※2削減し、2050年までに当社グループ全体のカーボンニュートラル（温室効果ガスの排出量と吸収量を均衡させ全体としてゼロにすること）を達成することを目標に掲げています。

今後も、ものづくりにおけるCO₂ 排出量削減に取り組むことで、持続可能な地球環境の保全と改善に努めてまいります。

ものづくり

CO₂ 排出量（スコープ1＋スコープ2）

集計対象範囲：株式会社シマノ単体の製造拠点及び国内外グループの製造拠点
（単位：千t-CO₂） ■ スコープ1 ■ スコープ2 ★ 第三者保証対象項目

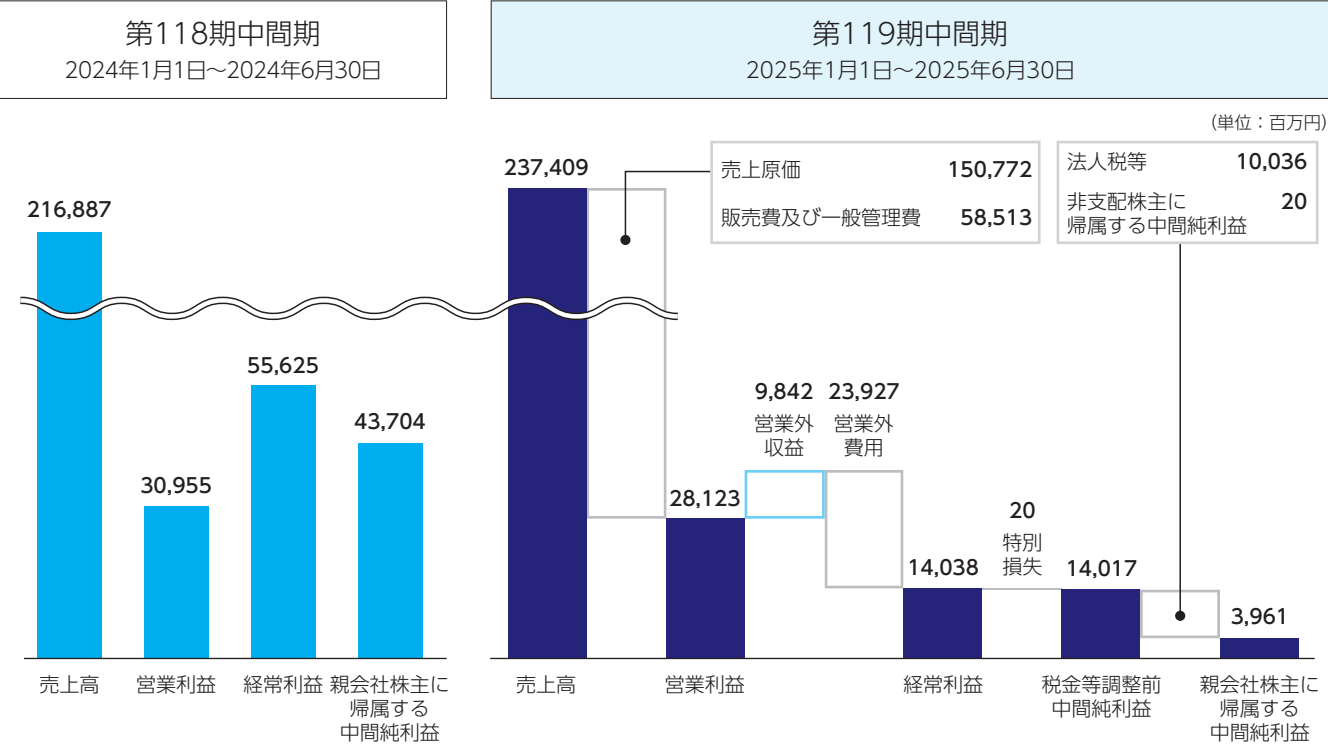


（注）四捨五入により、内訳と合計値が整合しない場合があります。

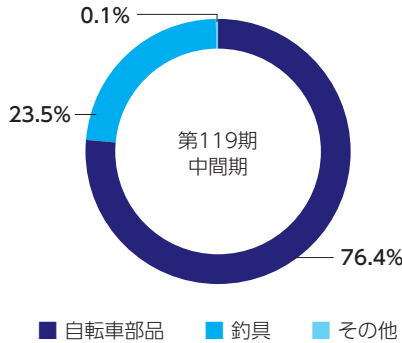
※1 スコープ1：化石燃料等の使用による事業所からの直接的排出（敷地外を走行する車両の燃料使用に伴うCO₂ 排出量及び、非エネルギー起源温室効果ガス排出量は算定に含めていない）、スコープ2：事業所外から供給された電力や蒸気、温水の使用による間接的排出

※2 2013年比

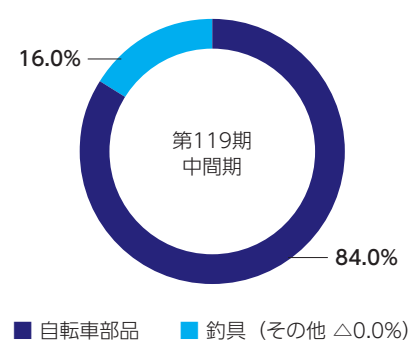
■ 連結損益計算書（要約）



■ セグメント別売上高比率

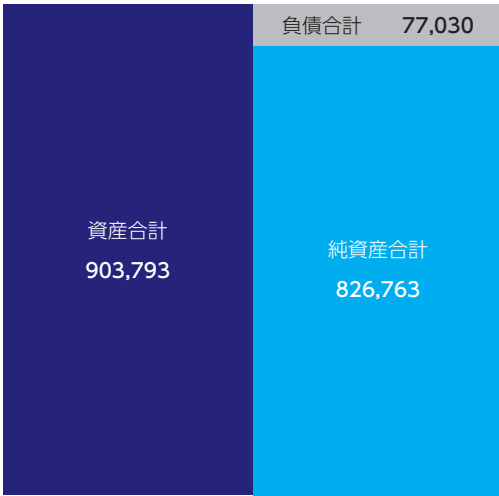


■ セグメント別営業利益比率



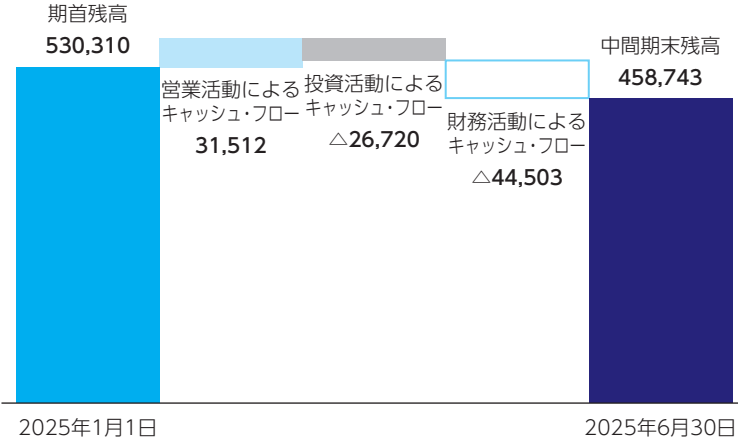
■ 連結貸借対照表（要約）

第119期中間期末 2025年6月30日現在
(単位：百万円)



■ 連結キャッシュ・フロー計算書（要約）

第119期中間期 2025年1月1日～2025年6月30日
(単位：百万円)



(注) 現金及び現金同等物に係る換算差額については記載を省略しております。
それにより生じるグラフの誤差については調整しております。

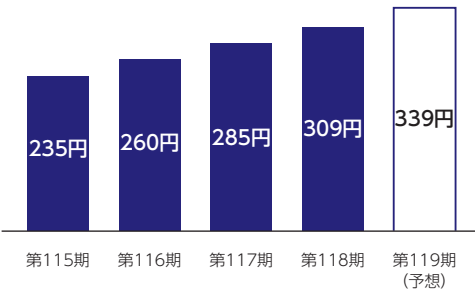
※その他の財務関連データにつきましては当社ホームページ「投資家情報：財務ハイライト」をご参照ください。
<https://www.shimano.com/jp/ir/finance-highlights.html>



年間配当金の推移

第119期中間期末の配当金は、前年同期から15円増配の1株当たり169円50銭とし、年間配当予定額は、当期末の配当を169円50銭として1株当たり339円を予定しております。

株主のみなさまに対する利益還元を経営上の重要課題と捉えており、今後も安定的な配当の維持・継続とともに業績の進展に応じた成果の配分を行ってまいります。



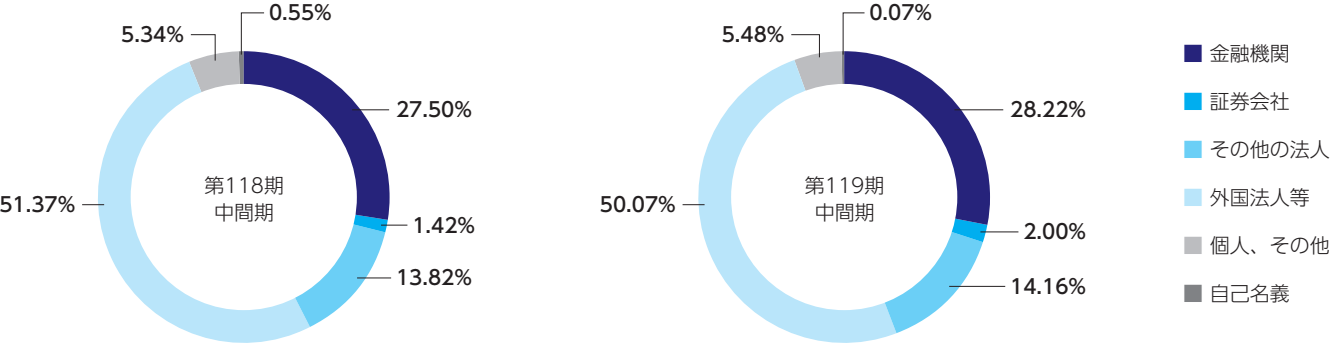
■ 発行可能株式総数262,400,000株

■ 発行済株式の総数87,710,000株

■ 株主数9,555名

■ 単元株式数100株

所有比率



大株主（上位10名）

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口）	11,639	13.28
湊興産株式会社	7,936	9.06
JP MORGAN CHASE BANK 380055	5,968	6.81
株式会社日本カストディ銀行（信託口）	3,951	4.51
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505001	3,185	3.63
株式会社スリーエス	2,171	2.48
日本生命保険相互会社	1,801	2.06
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505103	1,542	1.76
STATE STREET BANK WEST CLIENT – TREATY 505234	1,523	1.74
STICHTING PENSIOENFONDS ZORG EN WELZIJN	1,512	1.73

（注）持株比率は自己株式（58,741株）を控除して計算しております。

社名株式会社シマノ

英文社名SHIMANO INC.

創業年月1921年2月

設立年月1940年1月

資本金35,613百万円

事業内容自転車部品、釣具、
ロウイング関連用品等の製造販売

本社〒590-8577
大阪府堺市堺区老松町3丁77番地

URLhttps://www.shimano.com

■ 役員

代表取締役会長兼CEO	島野 容 三	上 席 執 行 役 員	金 井 琢 磨
代表取締役社長	島 野 泰 三	上 席 執 行 役 員	大 津 智 弘
代表取締役副社長	豊 嶋 敬	上 席 執 行 役 員	島 野 勇 三
代表取締役副社長	津 崎 祥 博	執 行 役 員	大 竹 正 浩
専 務 取 締 役	チア チン セン	執 行 役 員	中 野 敬 介
社 外 取 締 役	一 條 和 生	執 行 役 員	赤 川 満
社 外 取 締 役	勝 丸 充 啓	執 行 役 員	島 野 豪 三
社 外 取 締 役	榊 原 定 征	執 行 役 員	能 勢 佳 孝
社 外 取 締 役	和 田 浩 美	執 行 役 員	高柳優寛フアビオ
社 外 取 締 役	江 口 あ つ み	執 行 役 員	嶋 田 力
常 勤 監 査 役	樽 谷 潔	執 行 役 員	平 野 秀 樹
常 勤 監 査 役	吉 本 昌 義		
社 外 監 査 役	野 末 佳 奈 子		
社 外 監 査 役	橋 本 敏 彦		

■ 株主メモ

事業年度	毎年1月1日から12月31日まで	株主名簿管理人および 特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
定時株主総会	3月	株主名簿管理人	大阪府中央区北浜四丁目5番33号
基準日	期末配当金 毎年12月31日 中間配当金 毎年 6月30日	事務取扱場所	三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
単元株式数	100株	郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
公告方法	電子公告 当社のホームページに掲載いたします。 (https://www.shimano.com/jp/ir/electronic.html) ただし、やむを得ない事由によって電子公告による ことができない場合は、日本経済新聞 に掲載いたします。	電話照会先	電話 0120-782-031（フリーダイヤル） 受付時間 9:00～17:00 （土・日・祝日および12/31～1/3を除く）
		ホームページURL	https://www.smtb.jp/personal/procedure/agency
		よくあるご質問 （FAQ）	https://faq-agency.smtb.jp/?site_domain=personal お手続き方法やよくあるご質問は、上記「よくあるご質問 (FAQ)」サイトでご確認いただけます。
		証券コード	7309